

## 研究ノート

## プリセプティ―とプリセプターが想起した 看護ケア場面の相違から新人看護師指導を考える

星河純子<sup>1)</sup>・城生弘美<sup>2)</sup>・真砂涼子<sup>3)</sup>

### Consideration of Guidance for new Nurses, from Difference of the Nursing Situations Recalled by both of the Preceptee and the Preceptor

Junko HOSHIKAWA<sup>1)</sup>, Hiromi JONO<sup>2)</sup>, Ryoko MASAGO<sup>3)</sup>

キーワード：新人看護師指導、プリセプティ―、プリセプター、看護ケア場面

#### I. はじめに

厚生労働省は、「新たな看護のあり方に関する検討会報告書」（厚生労働省2003年3月）、さらには「医療提供体制の改革のビジョン」（2003年3月・8月）において看護基礎教育を充実するとともに、新人看護職員教育の充実のための対策として「新人看護職員研修ガイドライン」を作成した。これにより、2010年4月1日から新人看護職員の臨床研修等が努力義務となった。

看護師の新人教育の一方法としてのプリセプターシップは、1980年代に入り米国より日本の病院に導入されるようになった。しかし、プリセプターシップによる新人看護師の教育方法の課題として、松村（2006）は、体験の捉え方やプリセプターの関わり方によっては自己教育力を育むことはできない。自己教育力へとつながっていくためには、プリセプター以外の周囲からの支援が重要な意味を持つと述べている。

また、福井大学医学部附属病院が新たに始めたパートナーシップナーシングシステム（以下PNSと称す）では2人の看護師がパートナーシップの基本的考え方のもと看護ケアを実践しており、新人看護師教育もその一環で行われている。PNSは多くの病院で導入され、より安全で質の高い看護を提供する新しい看護方式とともに、新人看護師教育としても普及されている。一

方、PNSにおける新人教育の課題として河村ら（2016）は、PNSにおける新人教育は、先輩主体で業務が遂行されるため、新人看護師の成長の把握が困難であることや新人看護師の責任感が希薄になる、責任の所在が曖昧になると述べている。

このように、新人看護師教育の課題はプリセプターシップにおいてもPNSにおいても多くみられていることから、改めて新人看護師教育における指導と学びに焦点を当てて見直すことが必要であると考えた。そこで、従来から行われてきたプリセプターシップによる先輩看護師（以下プリセプターと略す）からの具体的指導の看護ケア場面と新人看護師（以下プリセプティ―と略す）の理解した学びの看護ケア場面の相違について明らかにすることで、新人看護師指導について考察したのでここに報告する。

#### II. 研究目的

プリセプティ―とプリセプターが一緒に行った看護ケアを通して、看護ケア場面を想起してもらい、プリセプターが指導した看護ケア場面とプリセプティ―が学んだと受け止めた看護ケア場面の相違を明らかにし、新人看護師指導について考察する。

1) 高崎健康福祉大学保健医療学部看護学科 2) 東海大学健康科学部看護学科 3) 元群馬バース大学保健科学部看護学科

### Ⅲ. 研究 方 法

#### 1. 研究対象

A市の地域中核病院に2014年4月1日付入職のプリセプティーター及びそのプリセプターを対象とした。研究対象であるプリセプティーターとそのプリセプターには、研究の趣旨を説明し、同意を得たペアを対象とした。

#### 2. 調査期間

新人看護師を対象に2014年4月から1か月間の集合研修を修了した5月から10月までの夜勤勤務に入るまでの6か月間

#### 3. データ収集方法及び調査内容

- 1) プリセプターとプリセプティーターの基本属性は、性別・年齢・臨床経験・教育歴である。
- 2) 独自に作成したプリセプターシップ状況把握用紙を用いて、実施日と一緒に行った看護ケアを想起し記載してもらい、プリセプティーターにはプリセプターと一緒に行った看護ケアの中から指導を受けた看護ケア場面を想起してもらい、学んだこと・感じたことを具体的に記載する。プリセプターには、プリセプティーターと一緒に行った看護ケアの中から指導した看護ケア場面を想起してもらい、具体的な指導内容と、特に教えた・感じてほしいこと等を記載してもらい。

#### 4. 分析方法

- 1) プリセプティーターとプリセプターの年齢、プリセプターの経験年数は、平均値を算出する。
- 2) プリセプティーター・プリセプターが想起し、記載した看護ケア場面をそれぞれ抽出する。
- 3) 抽出した看護ケア場面内容を吟味し、類似性に従いカテゴリ化する。分析過程には、質的研究に熟知した基礎看護学領域の指導者からスーパーバイズを受け、分析過程及び分析結果について、信頼性と妥当性の確保に努めた。
- 4) 各カテゴリに分類された看護ケア場面を単純集計し、プリセプティーター・プリセプターごとに比較する。

#### 5. 倫理的配慮

本研究は、群馬パース大学大学院倫理審査委員会の承認(110428)を得て実施した。研究を依頼するにあ

たり、研究対象者の施設責任者及び看護部長に向けて、研究計画書と共に研究の趣旨を明記したものを提示し、研究協力について承諾を得た。その後、本研究の対象者に対し、研究協力に関してなんら強制力はなく、業務遂行の不利益及び社会的な不利益をこうむることはないこと、得られたデータについては、本研究の目的以外に使用しないこと、関連学会誌への投稿の際にも個人が特定されるような公表の仕方をしないことを明記した。以上のことを口頭で説明すると共に、文書で提示し、研究対象者個々の研究協力への自由意志を確保するため、研究依頼書、承諾書を各対象者に渡した。承諾書の得られた対象に、研究方法の詳細な説明を個々に行った。

### Ⅳ. 結 果

#### 1. 対象者の属性

研究協力が得られたプリセプティーター及びプリセプターのペアは10ペアであった。

プリセプティーターの平均年齢は25.8歳、出身学校経歴は大学卒2名、専門学校卒が8名であった。プリセプターの平均年齢は30.1歳であり、平均経験年数は5.4年であった。

#### 2. カテゴリ別プリセプティーター・プリセプターが記載した看護ケア場面と場面数(表1)

プリセプティーター・プリセプターが想起した看護ケア場面は、プリセプティーター73場面、プリセプター73場面で計146場面であった。この計146場面の看護ケア場面をカテゴリ化した結果、【看護技術】【看護記録・アセスメント】【観察】【コミュニケーション】【仕事の流れ・その他】の5つのカテゴリが抽出された。

まず、プリセプティーターとプリセプターが記載した看護ケア場面数の合計は、【看護技術】のカテゴリの「輸液管理」が一番多く24場面であった。その内訳はプリセプティーター14場面・プリセプター10場面であった。次に多かったのが「血管確保」10場面、その内訳はプリセプティーター5場面・プリセプター5場面、「チューブ・ドレーン管理」は9場面、その内訳はプリセプティーター7場面・プリセプター2場面、「化学療法手順・見学・実施」は7場面、その内訳はプリセプティーター2場面・プリセプター5場面、「清潔ケア(清拭・足浴他)」は7場面、その内訳はプリセプティーター3場面・プリセプター4場面、「採血」は5場面、その内訳はプリセプ

表1 カテゴリ別プリセプティナー・プリセプターが記載した看護ケア場面と場面数

【看護ケア場面のカテゴリ】	【看護ケア場面】	プリセプティナーが記載した看護ケア場面数	プリセプターが記載した看護ケア場面数	看護ケア場面数の合計	プリセプティナーとプリセプターが共通して記載した看護ケア場面
【看護技術】	輸液管理	14	10	24	輸液ポンプ使用中の点滴ルート交換 CV 挿入介助
	血管確保	5	5	10	
	チューブ・ドレーン管理	7	2	9	
	化学療法手順・見学・実施	2	5	7	
	清潔ケア（清拭・足浴 他）	3	4	7	
	採血	2	3	5	
	輸血	2	3	5	
	人工呼吸器管理	1	1	2	人工呼吸器装着中の吸引
	吸入	3	1	4	
	口鼻腔吸引	2	2	4	
	血管造影	2	1	3	
	急変時の対応	3	0	3	
	摘便	2	0	2	
	膀胱洗浄	1	0	1	
	ストーマパウチ交換	1	0	1	心臓カテーテル検査手順
	Spo2モニター管理	1	0	1	
	パップ剤塗布	1	0	1	
	器械操作（Av-1）	1	0	1	
	体位変換	1	0	1	
	乳児の体重測定	1	0	1	
	褥瘡処置	0	1	1	
	血圧測定	0	1	1	心臓カテーテル検査手順
	検温	0	2	2	
ギブス固定の介助	0	1	1		
小 計		55 (75.3%)	42 (57.5%)	97 (66.4%)	4 場面
【看護記録・アセスメント】	記録（入院時・急変時）	5	0	5	0 場面
	看護計画	1	1	2	
	安静度変更後アセスメント	0	1	1	
	栄養管理アセスメント	0	1	1	
	小 計	6 (8.2%)	3 (4.1%)	9 (6.2%)	
【観察】	入院時・照射中の観察	2	0	2	0 場面
	心電図モニタ観察	0	1	1	
	小児の観察	0	1	1	
	静脈注射時の観察	0	1	1	
	小 計	2 (2.7%)	3 (4.1%)	5 (3.4%)	
【コミュニケーション】	患者対応	1	0	1	0 場面
	家族対応	1	0	1	
	母親への説明	0	1	1	
	入院時基礎情報聴取	0	1	1	
	小 計	2 (2.7%)	2 (2.7%)	4 (2.7%)	
【仕事の流れ・その他】	入院患者受け入れ手順	2	2	4	必要書類、PC入力、申し送り 患者への検査説明
	検査準備	2	1	3	
	遅番業務	1	1	1	ナースコール対応
	日勤業務終了確認	1	0	1	
	家族への配慮	1	0	1	
	転棟患者申し送り	1	0	1	
	休日勤務	0	4	4	
	転棟	0	2	2	
	当日手術準備等	0	2	2	
	患者基礎情報記入方法	0	1	1	
	振り返りノート	0	1	1	
	遅番業務手順	0	1	1	
	患者移送	0	1	1	
	退院手順	0	1	1	
	検査業務	0	1	1	
	朝の患者情報収集	0	1	1	
	日勤業務の流れ	0	1	1	
	日勤申し送り	0	1	1	
	日勤業務 PC 入力忘れ	0	1	1	
	他科受診	0	1	1	
小 計	8 (10.9%)	23 (31.5%)	31 (21.2%)	3 場面	
合計		73場面	73場面	146場面	7 場面
プリセプティナーとプリセプターがそれぞれ記載していない場面数の合計		25場面	16場面		

ティー2場面・プリセプター3場面、「輸血」は5場面、その内訳はプリセプティー2場面・プリセプター3場面等の順であった。【看護記録・アセスメント】カテゴリでは、「記録（入院時・急変時）」が一番多く5場面、その内訳はプリセプティー5場面・プリセプターは0場面であった。【仕事の流れ・その他】カテゴリでは「入院受け入れ手順」4場面、その内訳はプリセプティー2場面・プリセプター2場面、「休日勤務」4場面、その内訳はプリセプティー0場面・プリセプター4場面、「検査準備」は3場面、その内訳はプリセプティー2場面・プリセプター1場面等であった。

また、カテゴリ別からみた看護ケア場面数の合計で最も多かったのは、【看護技術】カテゴリであり97場面（66.4%）で、その内訳はプリセプティー55場面（75.3%）プリセプター42場面（57.5%）であった。次に多かったのは【仕事の流れ・その他】カテゴリの31場面（21.2%）で、その内訳はプリセプティー8場面（10.9%）プリセプター23場面（31.5%）であった。【看護記録・アセスメント】カテゴリでは9場面（6.2%）で、その内訳はプリセプティー6場面（8.2%）プリセプター3場面（4.1%）であり、【観察】カテゴリでは5場面（3.4%）で、その内訳はプリセプティー2場面（2.7%）プリセプター3場面（4.1%）であった。【コミュニケーション】カテゴリでは4場面（2.7%）で、その内訳はプリセプティー2場面（2.7%）プリセプター2場面（2.7%）であった。

次にカテゴリ別にプリセプティーが記載した73場面で最も多く記載した看護ケア場面数をみると、【看護技術】カテゴリの55場面（75.3%）であった。次に【仕事の流れ・その他】カテゴリの8場面（10.9%）【看護記録・アセスメント】カテゴリの6場面（8.2%）、【観察】カテゴリと【コミュニケーション】カテゴリは各2場面（2.7%）であった。また、看護ケア場面で多かったのは、【看護技術】カテゴリの「輸液管理」14場面、「チューブ・ドレーン管理」7場面、「血管確保」5場面、【看護記録・アセスメント】カテゴリの「記録（入院時・急変時）」5場面であった。一方、プリセプターが記載した73場面で最も多く記載した看護ケア場面数は、【看護技術】カテゴリの42場面（57.5%）で、次に【仕事の流れ・その他】カテゴリの23場面（31.5%）、【看護記録・アセスメント】と【観察】カテゴリは3場面（4.1%）、【コミュニケーション】カテゴリは2場面（2.7%）であった。看護ケア場面で多かったのは、【看護技術】カテゴリの「輸液管理」10場面、「血管確保」

5場面、「化学療法手順・見学・実施」5場面、「清潔ケア（清拭・足浴他）」4場面等であり、【仕事の流れ・その他】カテゴリの「休日勤務」4場面であった。

さらに、カテゴリ別にプリセプティーとプリセプターがそれぞれ記載した看護ケア場面数を比較すると、プリセプターよりプリセプティーの記載が多かったのは、【看護技術】カテゴリの13場面と【看護記録・アセスメント】カテゴリの3場面であった。一方、プリセプティーよりプリセプターの記載が多かったのは、【仕事の流れ・その他】カテゴリの15場面であった。

また、プリセプターは指導したと記載しているが、プリセプティーは学んだと記載していなかった看護ケア場面は、【看護技術】カテゴリでは「褥瘡処置」「血圧測定」「検温」「ギプス固定」の4場面あり、【看護記録・アセスメント】カテゴリは「安静度変更後のアセスメント」「栄養管理アセスメント」の2場面、【観察】カテゴリは「心電図モニタ観察」「小児の観察」「静脈注射の観察」の3場面、【コミュニケーション】カテゴリは「母親への説明」「入院時基礎情報聴取」の2場面、【仕事の流れ・その他】カテゴリでは「休日勤務」「転棟」「当日手術準備」「遅番業務手順」「退院手順」等の14場面であり、プリセプティーは73場面中25場面の記載をしていなかった。

一方プリセプティーは学んだと記載しているがプリセプターは指導したと記載していなかった看護ケア場面数を比較すると【看護技術】カテゴリは「急変時の対応」「摘便」「膀胱洗浄」「ストーマパウチ交換」等の9場面、【看護記録・アセスメント】カテゴリは「記録（入院時・急変）」の1場面、【観察】のカテゴリは「入院時・照射中の観察」の1場面、【コミュニケーション】カテゴリは「患者対応」「家族対応」の2場面であり、【仕事の流れ・その他】カテゴリは「日勤業務終了確認」「家族への配慮」「転棟申し送り」の3場面であり、プリセプターは73場面中16場面の記載をしていなかった。

### 3. プリセプティーとプリセプターが共通して記載した看護ケア場面（表1）

プリセプティーの学びとプリセプターの指導内容が共通して記載されている看護ケア場面は146場面の中での7場面のみであった。その内訳は、【看護技術】カテゴリでは「輸液ポンプ使用中の点滴ルート交換」「CV挿入介助」「人工呼吸器装着中の吸引」「心臓カテーテル検査手順」4場面と、【仕事の流れ・その他】

カテゴリでは「検査の準備（患者への説明）」「入院手順・PC入力・申し送り」「遅番業務（ナースコール）」の3場面であった。

## V. 考 察

今回の研究では、プリセプターシップを通して、新人看護師のプリセプティーターとその指導者となるプリセプターが、一緒に行った看護ケアから看護場面を想起してもらい、プリセプターが指導した看護ケア場面とプリセプティーターが学んだと受け止めた看護ケア場面の相違に焦点をあてた。

プリセプティーター・プリセプターがそれぞれ想起し記載した看護ケア場面を抽出した結果、プリセプティーター・プリセプターそれぞれ73場面が記載され、合計146場面であった。146の看護ケア場面の中で最も多く想起され記載されていたのは、【看護技術】カテゴリの「輸液管理」「血管確保」「チューブ・ドレーンの管理」などの診療の補助に関する看護ケアであり、生命に直接関わる看護技術であることから、プリセプティーターとプリセプターの両者が確実に必要として受け止めていたため記載が多かったことが考えられる。次に多かった看護ケア場面は【仕事の流れ・その他】カテゴリであった。これは「入院患者受け入れ手順」「休日勤務」等の日常勤務の中で行われる一連の業務や休日の人数が少ない状況の中で行う業務内容であり、早く理解して欲しいことから指導したと考えられる。

看護ケア場面的カテゴリからみると、【看護技術】カテゴリでは、プリセプティーターは全看護ケア場面の75%を記載しており、プリセプターも57%記載していた。山田（2003）は、「基礎看護教育における実習時間の短縮や医療事故などに関連する臨床の問題などで、経験できる看護技術は限られ、臨床現場の出来事は就職後の新人看護師にはほとんどが未経験であり、加えて各専門領域における特殊な知識や技術というこれまでに学習していない未知の技術を短期間に修得することが求められている」と述べている。このことから、プリセプティーターは未経験の看護技術を少しでも早く習得したいという気持ちを強く持っており、プリセプターも早く看護技術を習得してほしいと考えているからではないかと推察される。また、対象となった施設が地域の中核病院であり、急性期を中心とした医療が提供されていることから、日常的に高度な看護技術内容を要求されていることから、その傾向は理解でき

る。さらに、新人に求められている看護技術能力について本田ら（2010）は、「新人自身が看護技術の原理・原則に基づいて正確に実施できているか判断ができるように個々の動作の意味を理解し、原理・原則に基づく看護技術を習得していく必要がある」と述べているように、高度な看護技術については、特に原理・原則に基づいて確認しながらプリセプターは指導をすすめており、プリセプティーターも理解し学ぼうとする姿がこの結果からうかがえる。

次に看護ケア場面的【仕事の流れ・その他】カテゴリは31場面全体で21%であった。特に興味深いのはプリセプターの記載は全体の31%であったがプリセプティーターは全体の10%であった。また、プリセプターは指導したと記載しているがプリセプティーターは学んだと記載していない看護ケア場面が14場面あった。山田（2003）は、「学生のときに一人の患者を受け持って看護していた時とは違い、複数の患者のケアを限られた時間の中で構築していかなければならないという状況があることから、新人看護師が看護実践をする上で困難を引き起こす原因になっているのではないかと述べている。このことから、プリセプターは日常業務を早く習得して欲しいという思いがあるが、この時期においてプリセプティーターには、複数の患者を受け持ちながらの看護実践は精神的にも重く、業務の流れの全体を通し理解することは難しい状況が示唆された。

また、プリセプティーターの学びとプリセプターの指導内容が共通して記載されている看護ケア場面は146場面の中での7場面のみであった。このことから、一緒に看護ケアを行っていてもプリセプティーターとプリセプターの両者には、指導した場面と学んだ場面には乖離があることがわかった。また、カテゴリ別看護ケア場面でも、プリセプターが想起し指導したと記載しているがプリセプティーターが学んだと想起し記載していなかった看護ケア場面が25場面あり、その看護ケア場面数は全体の3分の1を占めていたことから、指導と学びの看護ケア場面が一致していない状況が明らかになった。プリセプターは約5年の臨床経験から全体的な仕事の流れを理解することが大変必要と考えているが、プリセプティーターは看護技術を学ぶことに集中しており、仕事の流れを学びとするには余裕がないことが考えられる。一方プリセプターが指導したと想起しない看護ケア場面でも、プリセプティーターは学んだと想起し記載している看護ケア場面が16場面あることから、プリセプティーターは一緒に行った看護ケア場面から自ら

学んでいる状況も明らかになった。

以上のことから、一緒に看護ケアの中からプリセプターが指導した看護ケア場面とプリセプティアーが学んだ看護ケア場面は必ずしも一致するものではないことが明らかになった。プリセプティアーは看護技術を早く習得したいという傾向が強く、プリセプターは看護技術の指導とともに仕事の流れを早く理解してほしいと思っている。つまり、入職6か月以内のプリセプティアーと臨床経験を積んできたプリセプターの両者には指導したいという思いと学びたいという内容の乖離があることを理解したうえで、原理原則を踏まえた看護技術の指導に重きを置きながら、徐々に全体の仕事の流れについて指導していくことが効果的と考える。また、新人看護師には看護ケア場面のあらゆる場面から自ら学んでいこうとする姿勢があることを尊重していくことが大切と考える。

## VI. 結 論

1. プリセプターが指導した看護ケア場面とプリセプティアーが学んだと記載した看護ケア場面数は共通して【看護技術】カテゴリが最も多く、両者とも習得できる看護として重視していた。
2. プリセプティアーが学んだと記載している看護ケア場面は、【看護技術】カテゴリが全体の75%を占めることから、入職6か月以内の時期では、最も多く習得したいと考えている事が推測された。
3. 【仕事の流れ・その他】カテゴリについて、プリセプターが指導したと想起し記載しても、プリセプティアーは学んだと想起し記載していない看護ケア場面は14場面あったことから、入職6か月以内のプリセプティアーにとっては業務全体の流れを理解するのは難しい時期であることが示唆された。
4. 入職6か月以内のプリセプティアーには、看護技術を学びたいという思いを尊重しながら全体的な仕事の流れを指導していくことが効果的である。
5. プリセプティアーは、プリセプターが指導した看護

ケア場面だけでなく、様々な看護ケア場面を通して自ら学ぶ意欲や姿勢を持っている。

利益相反：本論文内容に関連する利益相反事項はない

## 文 献

- 1) 八陣供美. プリセプターシップにおける対人関係と新人看護婦の自己教育力形成との関連－プリセプターシップ5組の半構成的面接を通して. 神奈川県立看護教育大学校看護教育研究収録. 1999, 24, p.249
- 2) 本田由美, 松尾和枝. 急性期病棟におけるプリセプター看護師が捉えた新人看護師の実践上の問題. 日本赤十字九州国際看護大学. 2010, IRR 第8号, p.61-69
- 3) 河村麻希, 中島千春, 他. PNS導入における新人看護師のスキルの評価に関する課題. 日本看護学会論文集. 看護管理 2016, 46, p.3-6
- 4) 松村恵子. プリセプターシップにおける自己教育力の育成. 日本看護学会. 看護管理. 2006, 37, P246-248
- 5) 水田真由美. 新卒看護師の職場適応に関する研究－リアリティーショックと回復に影響する要因. 日本看護研究会雑誌. 2004, Vol.127, No.1, p.91-99
- 6) 永井則子. プリセプターシップの理解と実践. 新人ナースの教育法 (第3版). 日本看護協会出版会
- 7) 中川征子, 中島千春, 他. PNS導入に伴うスタッフの意識変化と業務定着への工夫. 日本看護学会論文集. 看護管理. 2015, 45, p.23-26
- 8) 中川雅子, 明石恵子. 新人看護師に対する教育の実態と課題. 看護. 2004, Vol.56, No.3, p.40-44
- 9) 神開智子, 小路真由, 池本まゆみ. プリセプターの困難と望む支援. 看護管理. 2006, 37, 240-242
- 10) 山田多香子. 看護系大学を卒業した新人看護師の看護実践上の困難状況と学習ニーズ. 2003, Vol.13, No.7